

平井川流域河川整備計画の概要

平井川流域とは？

平井川は、西多摩郡日の出町の最西端「日の出山」（標高902.3m）の東側山腹に源を発し、日の出町中心部付近より草花丘陵と秋留台地の間を東流し、あきる野市平沢のJR五日市線鉄橋付近で多摩川に合流する流路延長16.5kmの一級河川で、支川の氷沢川、鯉川、玉の内川、北大久野川が流れ込んでいます。

平井川流域とは、平井川とその支川に雨が流れ込む細長い羽状形の約38.2km²の範囲をいい、あきる野市、日の出町の2市町にまたがっています。



位置図

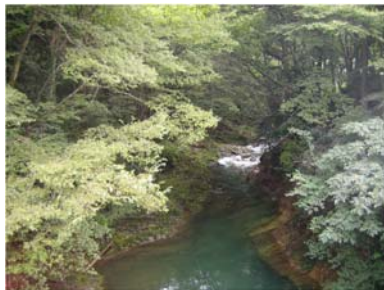


平井川流域図



於奈淵堰（多摩川50景）

流域の特徴



諏訪下橋付近の状況

平井川流域は、かつて東京の数少ない農村地帯でしたが、昭和40年頃から都区部の人口余波を受け、都市開発の進展により山林、農耕地が市街化されてきました。

その一方で、未だ自然地が流域の6割以上を占めていることから、平井川は、多様な生物が生息するなど自然環境豊かで、清らかな流れを持った都市域においては貴重な河川です。

平井川流域には、魚類をはじめとした多様な生物が生息しています。しかし、河道に取水堰や落差工などの河川横断構造物が数多く存在するため、水生生物の生息環境としては上・下流の連続性が損なわれています。

そのため、今後、水生生物が自由に行き来できる環境の改善や、緑豊かな水際への再生を図っていく必要があります。



菅瀬橋下流の落差工の状況



「こどもの水辺」による生物調査

平井川流域は、川沿いの散策などで、地域の人々に親しまれており、釣り、バードウォッチングや植物観察などでは、遠方からの来訪者も多く見られます。

また、平成16年8月には、子どもたちに河川環境と身近に触れ合える体験学習の場を提供する目的で、「平井川こどもの水辺」が登録され、子どもたちが水辺で賑わえる取組みが始められています。

河川整備の目標

平井川流域では、洪水に対する安全性を向上させると共に、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めています。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、平井川（多摩川合流点～一級終点：松尾橋）及び支川の氷沢川、鯉川、玉の内川、北大久野川とします。

計画期間は、概ね20～30年としますが、河川をとりまく状況の変化や社会状況の変化に応じて見直しを行います。

河川の整備

治水

・・・洪水による水害の防止又は軽減

1時間あたり50mm規模の降雨により発生する洪水を、安全に流すことのできる河川の整備を進めます。さらに、流域の保水・遊水機能を適切に確保するなど、総合的な治水対策により洪水被害の拡大を防止したり、超過洪水などに対しては、流域自治体とともに降雨及び水位などの情報提供を密接に行い、住民の安全な避難行動や地域防災活動を支援し、洪水被害を軽減します。



改修前の様子（平井川・尾崎橋上流）

低水路を広げ
洪水を安全
に流します



改修後の様子（平井川・尾崎橋上流）

環境

・・・河川環境の保全、創出、再生

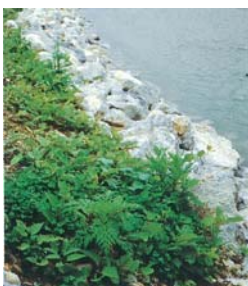
河川の整備にあたっては、多様な生物の生息・生育環境、人々の利用、景観等に配慮します。河床や水際部の多様性を保全・創出するため、緑豊かな河岸や水際の植生などの再生が可能な、自然に近い川づくりを実施していきます。

●生物の生息・生育環境に配慮した河川整備

からいし

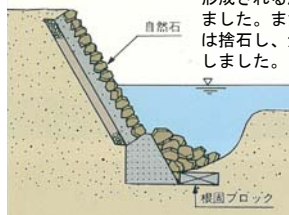
◎空石張護岸

自然石を空張することによって、空隙（隙間）の多い護岸を形成し、植生回復や魚類の退避場を創出しました。



◎淵の形成

水衝部の根固めを深く掘り下げ、自然状態で形成される淵を造成しました。また、淵内には捨石し、魚巣を造成しました。



かはんりん

◎河畔林の保全

生物の生息・生育環境に配慮して、河畔林を保全しました。

